

## エッセイ集概要

エッセイ集の「はじめに」を以下に引用する。

「ユーラシア大陸を徒歩で横断する旅」は 1995 年に企画されました。敗戦後の日本が貧しかったころ青春時代を日本国内の山野を歩き廻った仲間も、第二の人生を歩み始め、時間的な余裕が持てる歳になりました。時あたかも、ソ連の制圧下にあった東欧、コーサカス、中央アジアの国々が独立し、中国も開放政策を取り、ユーラシア大陸の旅も夢でなくなりました。若き日の海外の山野を歩きたいと言う夢の実現、未知の世界の好奇心、冒険を求める心を満足させる旅が 1996 年春に実行されました。

英国ロンドンのグリニッチ天文台（東経 0 度）からスタートし、フランスのカレーよりユーラシア大陸に入り、韓国の釜山でユーラシア大陸を離れて東京までの 20,000Km を地図上に線引きした道を 2 本の足を使ったシンプルな旅のスタイルでリレー式に歩くというものです。

2010 年春、14 年目で韓国釜山までユーラシア大陸を踏破しました。これからは東京までの道を残すのみです。ユーラシア大陸の旅に参加した人達の多くは 70 歳を超える年齢になり旅の貴重な経験、印象は時間と共に忘れ去られてしまいます。そこで旅から得た各人の見聞きしたこと、体験したこと、感じたこと、考えたことをエッセイとして残し共通の資産としたいと思い、ユーラシア大陸の完歩の記念に「エッセイ集」を発刊する事になりました。

1996 年スタートした時はソ連邦が崩壊し国際社会は混沌とした時代でした。その後もニューヨクテロ事件などあり今もって混乱が改善する兆も見えません。朝鮮半島も北朝鮮を通過して釜山へ行くと言う期待も実現しませんでした。

ただ、この 14 年間に世界の情報インフラ整備が進み、情報交換のやり方が劇的に変化しつつあることを肌で感じ、私達もその恩恵を受けて来ました。国を越えて何時でも、何処でも、誰とでも情報交換出来るネットワーク社会がユーラシア大陸の隅々まで広がって行くのはそう遠くないと思われます。この事が世の中に良い方向の変化に貢献するのではないかと予感します。

老人達のユーラシア大陸での見聞は、群盲の象を撫でる様なものかも知れませんが書かれた文章や写したスナップ写真を通じて民族や国境を越えた何かを感じ取って頂ければと思います。参加した人達には、この小さな冒険の旅を協力し合いながら達成した証として「誇り」と「自信」を持って読んで頂ければと思います。若い人達にはこの老人パワーに負けない様に「活力」を奮い立たせるカンフル剤として利用して頂ければと思います。

A4 版 592 ページ

本文 文章 264 編、写真 804 枚、イラスト 50 枚

白上質紙使用 白黒印刷

表紙 カラー印刷

定価 2,000 円（送料 400 円別途）